

「ので」に翻訳された中国語表現

日本語（訳文）		中国語（原文）			
会話文	地の文	会話文	地の文	作品名	訳文
	清平湾に到着したばかりの頃、私たちは自分の密洞がないので、当面明娃の家の古い石組みの密洞に住むことになった。		才到清平湾时，我们自己的窑洞还没有，就先住了明娃家一眼旧石窑，	插队的故事	遙かなる大地
	「明娃の許嫁が来たぞ」と子どもたちははやしてやしているの、われわれは走って見に行った。		“明娃的相好来啦！”听见娃娃们喊，我们都跑去看。	插队的故事	遙かなる大地
	その年明娃が病氣治療のため北京に来了ので、われわれは彼を案内して天安門を見に行つて写真を撮り、さらに、頤和園、王府井、動物園へ遊びに行った。		那年明娃来北京治病，我们带他看了天安门，照了相，又逛了颐和园、动物园、王府井。	插队的故事	遙かなる大地
	盲のじいさんが毎日崖に登るので、村人はいづれ足を踏み外すのではないかと心配するが、		瞎老汉每天都爬上崖去，众人担心他迟早会下去，	插队的故事	遙かなる大地
	去年陕西省北部に帰った時、当時の想像が道中しだいにはっきりしてきたので、同行の六人に話して聞かせた。		去年回陕北去，一路上我想象逐渐清晰，便讲给同行的六个人听。	插队的故事	遙かなる大地
	その頃私はもう清平湾を離れて北京の病院に入院していたので、金涛からの手紙でこのことを知った。		那时我已经离开清平湾，正住在北京的医院里，听金涛来信说起这事。	插队的故事	遙かなる大地
	仲偉が『港の夜』を吹き始めたので、われわれは#夜がもう明けて、船尾になびく青いスカーフ#と声を揃えてうたった。		仲伟吹起《海港之夜》，我们齐声唱：“当天已发亮，在那船尾上，又见那蓝头巾在飘扬！”	插队的故事	遙かなる大地
	どの家でもそんなに多くの綿布を買うほど余裕がないので、子どもたちは配給券を絵の代わりに壁に貼るのである。		家家都买不起那么多布，娃娃们就把布票贴在墙上当画儿看。	插队的故事	遙かなる大地
	その頃は線香を売っていないので、しかたなく紙巻きタバコで代用したが、		那时没有卖香的，便只好用纸烟代替，	插队的故事	遙かなる大地
	二十数羽の鶏はたくさん卵を生むので、人に頼んで市へ持って行って売ってもらうと、ひとり分の食糧を買うのに十分な金額になる。		二十几只鸡能下不少蛋，托人拿到集上卖了，一年下来够一个人的粮钱。	插队的故事	遙かなる大地
	戦争物が好きな人が多かったので、どの村も題名に「戦」という字がある映画を選ぶことになり、地雷は地道より派手に思えたようだ。		爱看打仗的人多，因此选择片名上有“战”字的，地雷又比地道显得红火。	插队的故事	遙かなる大地
	私たちの所は草木が少なく山に保水力がないので、二十分も豪雨が降れば鉄砲水に見舞われる。		我们那地方树少草少山上存不住水，只要二十分钟大暴雨山洪就下来。	插队的故事	遙かなる大地
	ザーッと雨脚が数十里にわたって広がり、雨城がうしろから追いかけてきて逃げられそうもなかったの、崖の中腹にある小さな穴に逃げこんだ。		齐刷刷一道雨线几十里拉开，横着在身后追来，看看跑不脱了，就钻进半崖上的小土窑，	插队的故事	遙かなる大地
	山があまりに高いので、谷底へ駆け下りて行って水を飲み、また登ってきた時にはたいてい隊長の「開始！」という声が聞こえる。		山太高，跑下沟底去渴一顿再爬上来，多半正赶上队长喊“落灶”。	插队的故事	遙かなる大地
	清平湾の人はみな近くで腕時計を見たことがないので、全員がひとわり見た後、それに対する崇拜の念が倍增した。		清平湾的人从没见过近处观察过手表，于是全体传看一遍后，都对它倍加崇拜。	插队的故事	遙かなる大地
	下痢だといっても夕暮れまでそうしているわけにはいかないの、しかたなくまた起き上がって元気に山を登る。		闹肚子也不能闹到天黑去，只好又爬起来来灰不塌塌往山上走。	插队的故事	遙かなる大地
	丸太は野獣のように上流から縦横に飛び跳ねて流れてくるので、三本の鎌を先端と真ん中と後尾に同時に引っかけなければならない。		圆木像一匹野兽从上游纵横竖跳地奔过来，三把镰刀得一头、一腰、一尾同时刹上去。	插队的故事	遙かなる大地
	小彬が食べた餃子の中に砂糖のかけらが入っていたので、女子連中は縁起がいいと言つてにこにこしながら彼を眺めていた。		小彬吃出一块糖来，女生们都笑眯眯地把目光投向他，说吃着的有福。	插队的故事	遙かなる大地
	あの頃は彼女たちも大きくだぶだぶの青い揃いの服を着ていたの、体の美しさを表せなかったせいかもしれない。		也许是因那时她们都穿又肥又大的蓝制服，显不出身材的美来。	插队的故事	遙かなる大地
	妻が六歳年下で農村に行った経験がなく、何も理解できないので、絶えず世代の断絶を感じると不満を述べる。		金涛对自己现在的家庭生活不大满意，抱怨他妻子比他小了六岁，没插过队，什么都不懂，时常感觉像是隔代人；	插队的故事	遙かなる大地
	ただ寝るだけで六角もとられるので、駅の待合室に行って夜を明かすことにした。		光是睡一觉也得花六毛，决定还是在车站候车室去熬一宿。	插队的故事	遙かなる大地
	三元六角節約したので、みんなで鶏の煮たのを買って食べようということになった。		既然节约了三块六毛钱，大家又都赞成买点熟鸡吃。	插队的故事	遙かなる大地
	熱い思いをすぐにはうまく表現できないので、やむなく難癖をつけてはげんかするのである。		那火热的相吸一时难于表达，便只好找碴儿打几回架。	插队的故事	遙かなる大地
	右側が王建軍の姉なので、私はずっと右半身を固くしたままだった。		我的右边是王建军的姐姐，所以我的右半拉身子总绷着。	插队的故事	遙かなる大地
	われわれ小説を書く人間は観察力に優れているので、共産党県委員会の建物に入るとすぐにこの美人の女性幹部に注目した。		我们这帮写小说的家伙，观察力都极佳，一进县委大院先都注意到了这个漂亮的女干部，	插队的故事	遙かなる大地
	あれは七十年の国慶節のことだ。村では祝日にしないので、私たちは自分たちで勝手に休みとした。		那是七〇年国庆，村里不放假，我们自己给自己放了假。	插队的故事	遙かなる大地
	辺りがわかにかん暗くなってきたので、ホスト側は会議室の天井のライトをつけた。		天色突然黑了，主人打开了会议室屋顶上的隐灯。	活动变人形	応報
	二、三言交わしてから、史太々がお茶を取りに立ったので、倪藻は氣持のゆとりを取り戻し、部屋の中を見回した。		应答了几句以后，史太太蹒跚地去给客人端茶，倪藻得以安静一下，打量着这间屋子。	活动变人形	応報

日本語 (訳文)		中国語 (原文)			
会話文	地の文	会話文	地の文	作品名	訳文
	口を少ししか開けず、歯の隙間から押し出すようなブツた物言いをするので、歯音でない音も歯音になってしまう。		“花瓶”说话有一种从齿缝里向外挤的酸味儿，使一些绝非齿音的字儿也变成了齿音。	活动变人形	応報
	昨夜、不潔な場所にいたので、朝早く洗いにきたのだった。		昨天晚上他在一个不洁的地方，所以他一早就来洗了澡。	活动变人形	応報
	幸い、倪藻が今日は早く下校して来たので、静宜の気持はいくらか安らいだ。		幸好倪藻今天放学早，岔开了静宜的紧张的心。	活动变人形	応報
	吾誠が身を交わしたので、粥の椀は彼の左肩に当たった。		倪吾誠躲闪了一下，绿豆汤碗砸中他的左肩。	活动变人形	応報
	そのガン首も腰掛けの脚に叩きつけるので、脚にも沢山の円形・半円形の跡型がついた。		小烟袋锅经常在板凳的另一条腿上磕，磕得那条腿上出现了许多圆与半圆的戳记。	活动变人形	応報
	ビスマルクは若い須田舎の宿屋に投宿し呼鈴を押しても給仕がこないで、ピストルを取り出して天井へむけぶっ放した。		俾斯麦年轻的时候住进一家乡间旅馆，他按了几下铃仍然不见侍应生来，于是他掏出手枪向屋顶开枪射击。	活动变人形	応報
	。毎月の給料をきちんとママに渡したので、家中が幸せな気分一杯だった。		他按月把薪水交给母亲，这使全家洋溢着一种喜盈盈的气氛。	活动变人形	応報
	年が小さすぎるので、閲覧室に足を踏み入れた途端に厳しい声が発音してきた「子供はダメよ」		由于他年龄过小，刚一进阅览室就听到声严厉的警告：“小孩儿不让进。”	活动变人形	応報
	暫く目を通していたが頭にはいらないので、母上と姉上に新年のご挨拶をしようとして妻を誘った。		读了一会儿，读不进去，他便找静宜，说是要给老太太与姐姐拜年行礼。	活动变人形	応報
	半眼を閉じて呪文を説いていた倪萍は耳ざとく聞きつけ、婆ちやまをおいてペタンと地べたに座りこみ、手足をバタつかせて再び泣きわめいたので、服も地べたも目汁鼻汁でぐちょぐちょになった。		半闭着眼睛念咒的倪萍却保持着高度的警觉。姨姨的从鼻子里发出的笑声立即被她听到，她放开妮妮，坐在地上又疯狂地两手乱抓乱挥，两脚乱蹬乱踢地哭了起来，泪水和鼻涕满身满地。	活动变人形	応報
	三番目の弁護士は一面識だったので、訪問したついでに悩みを打ち明ける形をとり、金は払わなかった。		第三个律师与他有一面之交，他假装去看望人家，与人家谈了自己的难题，没有付钱。	活动变人形	応報
	道路が陥没して、両側が削いだように切り立っている。アルカリ土壌はサラサラと腰がなく、重圧に耐えかねるので、道は細い溝になっている。		道路下沉，两侧如峭壁。碱地疏松，经不住碾压。碱地的土路便都是一条条的窄细的沟。	活动变人形	応報
	死顔は歯を食いしばっていたので、両頬がげっそりこけていた。		死后她的牙关咬得紧紧的，两腮显得瘪进去了。	活动变人形	応報
	日付も記していないが、インクや字体がちがうので、一時に書いたものでないことはわかる。		亦不著月日，惟墨色字体不一，知非一时所书。	呐喊	呐喊
	その後ぼくに悪態をついた連中もお巡りに弁髪を切られたので、それからはもう、悪態をつかれることはなかったが。		后来骂我的人也被警察剪去了辫子，我就不再被人辱骂了。	呐喊	呐喊
	それに彼は、何度か城内に行っているのので、自尊心が強くなるのも当然であった。		加以进了几回城，阿Q自然更自负。	呐喊	呐喊
	孫娘のほうも、耕している田畑は地主のものなので、小作料を納めると、あとにはまきひとからげしか残らなかった。		孙女呢，养种的地是地主的，交了租子只剩一把柴禾。	青春之歌	青春之歌
	正義感に富んだなんんかのクラスメートが、かの女の身の上に同情して、毎月の食費をカンパしてくれたので、どうやらこうやら、ひきつづきニカ月間の学校生活を送ることができた。		有些热情的同学同情她，几个人每月替她凑饭费，她就这样勉强读完了最后两个月的书。	青春之歌	青春之歌
	成績はばつぐんだったので、とても嬉しかった。		她考试的成绩很好，心里很高兴。	青春之歌	青春之歌
	これ以上学校をつづけられなくなったので、従兄の所に職探しにきたと告げた。		只说家里不能再供她念书，所以我找表哥来谋职业。	青春之歌	青春之歌
	来るときはまわりの景色に気をとられて、気もそぞろだったので、このまま楊村へ帰れるかどうか、あやしくなってきた。		来的时候，只顾踉踉跄跄地东瞧西看了，现在回杨庄的路却弄不清楚。	青春之歌	青春之歌
	まだ時間があるので、駐車場の外の空気を散歩した。		因为时间还早，他们就站在车站外面的一片空地上并肩漫步着。	青春之歌	青春之歌
	自活するという理想が実現したので、気持もしいにおちつき、教員生活にも、子どもたちに対しても、だんだんと興味湧いてきた。		由于自己养活自己的理想实现了，她的心情逐渐安静下来，并且对教书生活和孩子们也渐渐发生了兴趣。	青春之歌	青春之歌
	田舎の郵便局では、四、五日おきにまとめて一度に配達するので、配達夫が来ない日はともかく、来る日もなれば、かの女あての手紙が山と積まれる。		因为乡村邮局好几天才送一封信，所以邮差不来便罢，一来就有她一搭子信。	青春之歌	青春之歌
	「九・一八」のあと、愛国運動に奔走したので、この衛戍司令部の監房に、もうニカ月も、とじこめられているのだった。		“九一八”后，因为奔走爱国运动，被押在这卫戍司令部的监牢里已经两个多月了。	青春之歌	青春之歌
	楊村では、毎月十五元の給料しかもらっていなかったのので、食費、通信費、日用の雑費を差しひいてしまうと、繰入れ一枚さえつくれなかった。		在杨庄每月只有十五块钱的薪水，除了吃饭、发信、零用，她连一身厚棉衣都没有挣上。	青春之歌	青春之歌
	条件もそう悪くないので、さっそく出かけてみることにした。		她看条件还差不多，就准备去试试。	青春之歌	青春之歌
	曉燕から、これまでなんども忠告されているので、かの女は相手をだまそうと思ったのだ。		因为晓静已按晓燕说了许多次，所以这次决心瞒住她。	青春之歌	青春之歌
	余永沢は、かの女の気性を知っているのので、憂うつそうにうなずくだけで、それ以上反対しようとはしなかった。		余永泽知道她的脾气，只好愁闷地点点头，不再说下去。	青春之歌	青春之歌
子どもの頃、ぼくはあのじいさんの息子の五福と、大の仲よしだった。家が向かいあったので、よく一緒に沼に水浴びにいったもんだ。		小时候，我和老头的儿子五福最要好，我们住对门，常常一起跳到大坑里去打扑通。		青春之歌	青春之歌

日本語 (訳文)		中国語 (原文)			
会話文	地の文	会話文	地の文	作品名	訳文
	余永沢は答えなかった。かれの心は、すぐにも来訪してくる、あの「貴いお方」に占められ、じりじりしていたので、道静のことばなど耳にはいらなかったのだ。		余永泽没有出声。他心里焦急地想着那个他要找的“贵人”，道静说的什么他根本没听见。	青春之歌	青春之歌
「じつは王国維と羅振玉の著書を読んだんだが、よくわからない問題があるので、ちょっと、胡適のところへ聞きにいこうと思って——		“我读王国维和罗振玉的著作，里面有些问题弄不大清楚，想找胡适问问——		青春之歌	青春之歌
	あまり余永沢が黙りこんでいるので、そっと近づいてたずねた。		见余永泽一直闷不做声，慢慢走到他身边：	青春之歌	青春之歌
	この部屋の仲間のうちでは、白莉華と羅大方のふたりのほかは、だれも知りあいかなかったので、かの女はひとりすみっこで、静かにみな話を聞いていた。		这屋里除了白莉华和罗大方，其他人她都是不认识的，所以她坐在一个角落里，只静听别人谈话。	青春之歌	青春之歌
	羅大方が前口上だけで、なかなかうたって聞かせないので、足をばたばたさせてせがんだ。		小崔这孩子瞪着圆圆的亮眼睛听得入了迷，她见罗大方总是卖膏药，急得要跳脚。	青春之歌	青春之歌
	余永沢が帰ってきたので、道静は大喜びで食事の準備をした。		道静看见余永泽回来，高高兴兴地替他把饭预备好。	青春之歌	青春之歌
	いっぽう、余永沢のほうは、狭い部屋の中でいらしているだけで、退屈でたまらなかった。しかたがないので、最近、一年間研究してきた古典を、整理することにした。		可是余永泽呢？他局促在小屋里，百无聊赖，只好拾起他最近一年正在钻研的“国故”来。	青春之歌	青春之歌
	道静は話しかけられたので、すっかり嬉しくなり、		道静看见她先跟自己说了话，真高兴得很，	青春之歌	青春之歌
	はじめは、ふたりとも道を急いだので、話をしなかった。		开始两个人都急步走着，谁也不说话；	青春之歌	青春之歌
	勝利のうちにゴールインしたので、心からの喜びと、安堵感をあらわしているのだ。		因为胜利地跑到了目的地，就又表现了一种衷心的喜悦和松快。	青春之歌	青春之歌
	あまりに嬉しかったので、いつもの冗談も出てこなかった。		因为高兴了，他反倒不开玩笑笑了，	青春之歌	青春之歌
	羅大方のそのことばは、とても自然で、心がこもっていたので、許寧はそのあと、長いあいだ忘れることができなかった。		罗大方的这句话，说得这样自然、这样亲切，竟使得许宁长久地不能忘掉它。	青春之歌	青春之歌
	こうしよう、ぼくは、今晚、少し書きものをするので、しばらくここに、いさせてもらう。		就这样吧，我今晚要写点东西，就在你这儿多耽搁一会，	青春之歌	青春之歌
	その感情は、あまりにも強く、はげしかったので、いましがたの緊張を忘れさすほどだった。		顷刻间，她的心头充溢着一种幸福的、欢乐的感情，这感情是这样激越和有力，竟使得她忘掉了刚才的紧张，	青春之歌	青春之歌
	生活が比較的自由になったので、かの女は全精神を、革命事業と同志との連絡に集中できるようになった。		她的生活比较自由了，就用全副精神放在和革命同志的联系上。	青春之歌	青春之歌
	やっと道静が口をきいたので、胡夢安は身体をおこし、煙草を吸う手を休めて、注意深く耳を傾けた。		好容易听到道静讲话了，胡梦安直起身子放下纸烟屏息侧耳地听着。	青春之歌	青春之歌
	これはかれの癖なので、道静は気にとめなかった。		因为他一向是这样，所以道静也没有理会。	青春之歌	青春之歌
	今晚、七時の脱出のことが心を占めているので、長話をする気にはなれなかったのだ。		因为惦记着晚上的七点钟，所以她没有心绪和他多谈。	青春之歌	青春之歌
	江華はまだ眠っているに違いないと思ったので、ひとりで学校の近くの野原へ散歩いき、歩きながら歌をうたいだした。		估计江华还在睡觉，她就一个人走到学校附近的旷野里，一边散步一边唱起歌来。	青春之歌	青春之歌
	かれの口調は、とても自然で、さりりとしていたので、教訓の感じを、少しも相手にあたえなかった。		他的话说得很自然，很随便，令人没有感到一点教训的意味。	青春之歌	青春之歌
	ところがその夜、江華は帰って来なかった。夜中までまったが帰って来ないので、道静は心配で心配で眠れなかった。		这晚，江华没回来，道静等到半夜了，还不见他回来，心里焦虑不安，睡也睡不着	青春之歌	青春之歌
	上海はあぶないので、北平に逃げると、やはり印刷工をやっている、叔父のもとに身を寄せた。		上海不能存身，他就跑到北平来找他的也做印刷工人的叔叔。	青春之歌	青春之歌
	南京への南下デモから帰ってから、北大にいるのもあぶなくなったので、党はかれを唐山に派遣した。		南下示威回来，在北大不能存身了，党分配他到唐山去。	青春之歌	青春之歌
	こすればこするほど、泥で黒くなるので、道静は思わずふきだした。		可是越抹越脏、越黑。道静啾咪笑了：	青春之歌	青春之歌
	午後三時になっても、趙毓青も生徒たちも帰ってこないで、道静はどうにもこうにもがまんできなくなり、十人あまりの生徒を連れて、県政府へかけつけた。		午后三点钟还不见赵毓青和学生们回来，道静实在忍不住了，她领着十几个学生也向县政府跑去了。	青春之歌	青春之歌
「卒業後、天津で職が見つからないので、田舎のおばさんのところへ来ました			“毕业了，在天津找不到职业，就到乡下姑母家来了。	青春之歌	青春之歌
父はこの一両日、気分がすぐれないので、二・三日したらおひき会わせしますから」		我父亲这两天身体不大好，过两天再替您引见。”		青春之歌	青春之歌
	道静は、おばさんが、こんなにも具体的に、工作方法を指示してくれたので、思わず感謝のまなざしでかの女を見つめ、心中、なんと聡明で、腕のたつ人だろうと思った。		道静看姑母把工作交代得那么一清二楚，忍不住用感激的目光看着她，心里想，她是多么精明能干啊。	青春之歌	青春之歌
	ちょうど午睡の時刻だったので、広い庭の内外に、人影はなかった。		这是睡午觉的功夫，场院里外都不见人影。	青春之歌	青春之歌
	小屋の中で人声がしているようなので、道静は開けっ放しになっている入口の外に立ったまま、ちょっと入りそびれた。		小屋里似乎有人声，道静站在敞着的门外不好意思走进去，就转到破窗户边向昏暗的屋里望去。	青春之歌	青春之歌
	旦那も作男たちも、朝早く出て、夜おそく帰ってくるので、屋敷には人がなくなつた。		东家、长工都是早出晚归很少有人在家。	青春之歌	青春之歌
	真相があきらかになったので、道静の心は、すぐにおちつきをとり戻した。		因为明白了真相，道静的心立刻安静下来。	青春之歌	青春之歌

日本語 (訳文)		中国語 (原文)			
会話文	地の文	会話文	地の文	作品名	訳文
	こんどのふるえ方は、あまりにはげしかったので、そのしゃがれた声までも、手のふるえにあわせて、ふるえていた。		这次，它颤抖得那么厉害，以致连他粗嘎的声音也合着手的拍子颤抖起来：	青春之歌	青春之歌
「このところ、あまり外出しませんので、外のことは、なにもわかりませんわ」		“这几天不大出门，外面的事我什么也不知道。”		青春之歌	青春之歌
「今日の午後、若旦那が帰ってきたので、部屋にあいさつにいったの。そしたら、テーブルの上に、写真が一枚のっていたの。」		“今天下午少东家回来了，我到他屋里去看他，看见他桌上放着一张照片，		青春之歌	青春之歌
「おまえさんが釣針にかからないので、き、きつとあせったんだよ……」		“不过还没看清，少东家就扭过头来，我就没法再看了。”		青春之歌	青春之歌
	白莉苹は、頭の回転の早い女性なので、道静がそういうと、すぐさま口をあわせた。		白莉苹是个非常乖巧灵活的女人，一见道静这样说她，赶快改了口	青春之歌	青春之歌
	連日の緊張と疲労で、全身汗まみれだったので、入浴して、きがえをしてから、出かけようと思ったのだ。		连日紧张疲劳、浑身汗水，她想洗个澡，换件衣服再想法溜走，	青春之歌	青春之歌
	敵は李偉をつかまえたので、大喜び。		敌人捕到李伟非常高兴。	青春之歌	青春之歌
	奴らは、かれが共産党の重要幹部ってことを知っていたので、内部事情にいろいろとにらんだのね。		他们知道他是共产党的重要人物，他所知道的关系必然多。	青春之歌	青春之歌
	かれは手でもきれいな好きなので、少しでも水が手に入ると、全身をきれいに洗うの。		他非常喜欢清洁，弄到一点点水，也要把全身洗一洗。	青春之歌	青春之歌
	道静と淑秀は、一日じゅうベッドに寝ていて、外のようなすをぜんぜん知らなかったの、こういつたいき違いが生じたのだった。		道静和小俞成天倒在床上毫不知道外面的情况，这才闹了这么个误会。	青春之歌	青春之歌
	この女は、道静たちを骨のない人間だとばかり、思いこんでいたので、最初につっかりして馬脚をあらわしてしまったのだ		原来她以为道静、小俞是两个没骨头的人，因此一开头就疏忽地露出了马脚。	青春之歌	青春之歌
	北平に来るにも旅費がないので、石炭車にしるびごみ、石炭の山の中に隠れてきた。		要到北平来没有路费，他就偷坐在煤车上，藏在煤堆当中，	青春之歌	青春之歌
	渴ききっていたので、まず河水をすくって飲んだ。		渴极了，先用手捧着喝了几口河水，	青春之歌	青春之歌
	全身に炭粉がついているので、それがすぐ手や顔につくのだ。		因为身上、破衣服到处全沾满了煤屑，一会儿工夫这些煤屑便又沾到脸上手上	青春之歌	青春之歌
	二日間なにも口に入れていないので、全身がけだるく、まるで病気になるように力がなかった。		两天多没有一口东西入肚，他浑身软绵绵的，好像病了一样没有一丝力气。	青春之歌	青春之歌
	そうやって前後して、ふたりの同志のところを訪ねたが会えなかったの、北京大学に徐輝を訪ねることにしたのである。		他先到两个同志处没有找到人，便走到北大来找徐辉。	青春之歌	青春之歌
	だが、この身なりでは、受付を通すわけにはいかないの、寮の門口の大きな横の下で、こうして徐輝をまちぶせたとこのわけだった。		可是他那样子又不能到房门里去找，只好倒在徐辉宿舍门口的大树下，就这样遇到了徐辉。	青春之歌	青春之歌
	晓燕は自尊心の強い娘だったので、じぶんがすでに戴倫を愛してしまったのを知っていたが、じぶんのほうからさきに、それを示したからなかった。		晓燕是自尊心很强的女孩子，她知道自己爱上了戴伦，但是却不愿先把这种感情表现出来。	青春之歌	青春之歌
	かれはお金持なので、いつも手土産してくれ、それでわたしたち一家は、どうにか暮らしていけるのです」		他很有钱，时常接济我们。所以家里的生活还过得去。”	青春之歌	青春之歌
	しばらく会わなかったの、ふたりは少しばかり恥づかしく、はにかんだように椅子のそばに立ったまま、驚きの色を浮かべていた。		许久不见了，她们有点儿害羞，怯怯地站在椅子边上惊奇地看着她。	青春之歌	青春之歌
	江華があからさまに理由をいわないので、遠慮して、じぶんのほうからもちげなかった。		但因为江华不明说，她也不便多问。	青春之歌	青春之歌
	つづけてなにか話そうとしたが、ことばにならないので、あねさんは苦笑すると、黙りこんでしまった。		她还想说什么，一时说不出，苦笑，就沉默了。	青春之歌	青春之歌
	通行人が少ないところだったので、だれにも発見されなかった。		因为行人稀少，并没有人发现他。	青春之歌	青春之歌
	劉麗は外国語科の学生で、二十二歳。小がらで伶俐なので、十七、八にしか見えなかった。		刘丽是外语系的学生，二十二岁。她长的矮小伶俐，看起来只有十七八岁。	青春之歌	青春之歌
	両の頬がまっかに腫れあがっているの、大きなマスクをしていたのだが、		道静的两颊是红肿的，她不得不戴了一个大口罩。	青春之歌	青春之歌
	話をするのに不便なので、そこまですると道静は、マスクをはずしてしまった。		因为感觉说话不便，这时，她摘下口罩继续说道：	青春之歌	青春之歌
	侯瑞は道静に、なにか話しかけようとしたが、かの女が口をすぼめて見せたので、また黙ってしまった。		侯瑞想向道静说什么，她向他努努嘴，他没有说。	青春之歌	青春之歌
	学生会の改選がだめになったので、やむをえず緊急動議をだして、現行の学生会の名で、学連参加を提案した。		学生会的改选是不成了，只好临时动议，由旧学生会去参加学联，	青春之歌	青春之歌
	従姉はあなたのことを、まるで小説の中の人物のように話すので、とても面白くてね。		她把你说得像小说里的人物，可有意思啦。	青春之歌	青春之歌
	部屋の中が寒いので、江華はたえずぐつい両手をこすっていた。		因为屋子冷，江华不住地搓着两只大手。	青春之歌	青春之歌
	よろしい、諸君が賛成なようなので、これから討論をはじめることになります。		“那太好啦。大家既然都赞成，现在我们就开始讨论。”	青春之歌	青春之歌
	日本人が通過している最中なので、大声だして叱責するわけにはいかず、待合室の中に向かって白目をむき、低い声でどなりつけた。		此时日本人在经过，他不敢大声叱骂，却朝候车室里瞪大眼睛压低嗓音吼道：	青春之歌	青春之歌

日本語 (訳文)		中国語 (原文)			
会話文	地の文	会話文	地の文	作品名	訳文
	部屋の中が少し暑いので、かの女は、きふるした紺色木綿の綿入の旗袍をぬいで、赤いセーター一枚になっていた。		屋子有些热，她脱掉半旧的蓝布棉旗袍，只穿一件红毛衣。	青春之歌	青春之歌
	林道静は悪党になってしまったので、すでに絶交していると告げようと思ったが		林道静变坏了，她们已经断绝往来了	青春之歌	青春之歌
	侯瑞は四年生でもあり、四年生から臨時に選出された代表でもあるので、かれがいちばんさきに立って発言した。		侯瑞是四年级的学生，他又是四年级的临时推选出来的代表，所以他先起立发言：	青春之歌	青春之歌
	晓燕はそれらの証拠の品じなを手にとると、よろよろと庭へ走り出ていった。まっすぐに立っていられないので、葉の落ちきった裸の丁子の樹の幹にもたれかかり、肌をさす冷たい北風に吹かれて、ま夜中過ぎまで立ちつくしていた。		这时晓燕就拿着这几件东西踉踉跄跄地奔到院里去。她几乎站立不稳地扶着一棵秃秃的丁香树，在凛冽刺骨的寒风中一直站到后半夜。	青春之歌	青春之歌
	一本また一本と、つづげざまに煙草を吸っているので、室内には、煙がもうもうとたちこめていた。		一根接一根地吸着烟，弄得满屋子都是混浊的烟气。	青春之歌	青春之歌
	いつまでまっても、王晓燕が帰ってこないで、王教授夫婦もあわてだした。		晓燕总不回来，王教授夫妇开始着急了。	青春之歌	青春之歌
	孫主任が人前でほめ称えようとは予期しないことだったので、とっさに顔の赤らむのを覚えた。		她没有想到孙主任会当众表扬自己，一时脸红了。	北京女医	北京的女医
	卒業の年次だけは憶えているので、そのように答えた。		她只记得自己是哪年毕业的，就那么回答了：	北京女医	北京的女医
	///さてどう返事をしようかと考えていると、焦次官がいかにも、もうよしてくれといった態度で、身体を秦波の方へにじり寄せ、頭を彼女の方へ突き出してきたので、ようやく夫人は口を噤み、視線も自分の体の上に移動したのであった。		///当她正考虑怎么委婉答复时，她记得，就在这时，焦副部长不耐烦地把身子在沙发上挪动了一下，朝秦波那边扭过头去。这一来，那夫人不说话了，眼睛也从自己身上移开了。	北京女医	北京的女医
	///だが、双方の眼がほとんど失明しているのに、人びとの注目の視線にも気付かぬように、ただひたすら大きな両手を差し伸べながら、陸文■の声のする方角を模索するかのようには歩み寄っている。		///但他双目几近失明，不知这么多人在看自己，只伸出两只大手，迎着陆文婷说话的声音摸去。	北京女医	北京的女医
	診察のテーブルに着いても気がかりなので、看護婦にそう言って少し早めに帰ろうと思っていたが、患者が次々ときてみると、それも忘れてしまっていた。		她坐在诊桌边时，心里还想着，一会跟护士长说一下，少叫几个号，我得早点回去。可是，病人一来，这一切都忘了。	北京女医	北京的女医
	回答しにくいことばかりだった。今までも随分と手術はしてきたが、こんなことを提起されたことは初めてだったので、仕方なくこう答えた。		这使她很难回答。她做过上百例这种手术，还很少有人向她提过这样的问题，只好答道：	北京女医	北京的女医
	陸文■は腕曲に断わるしかないで電話器に向かって言った。		陆文婷不得不赶忙挡驾，对着话筒说：	北京女医	北京的女医
	「もうよしましう！」+++陸文■は、劉学堯が国外に行かざるを得ない理由が、彼のひとり娘のためであることを思うと、これ以上深入りすることは避けたかったので、そっと話題をそらせたのであった。+++「私、お酒は嗜まないけど、亜芬とあなたが発たれるから、今日はあなたの方のために乾杯します！」		“不谈这些吧！”陆文婷猜想到刘学堯非要出国不可的理由，可能是为了他那唯一的女儿，觉得不便深谈，便岔开话说：“我从来不喝酒，亚芬和你要走了，今天我要敬你们一杯！”	北京女医	北京的女医
	「それはいけません」+++陸文■は説明した。+++「過熟期になりますと、晶体が収縮し、晶体内の皮質が溶化して懸韧带がもろくなりますので、手術は比較的困難になります。と言いますのは、この時期の晶体は脱落しやすいからです」		“那样不好。”陆文婷解释说，“到了过熟期，晶体缩小，晶体内部的皮质溶化，悬韧带松弛，手术就比较困难了，因为这时候晶体很容易脱位。”	北京女医	北京的女医
	陸文■は背丈が低いので、手術の度ごとに椅子を高くし付けなければならなかった。		陆文婷个子矮，每次手术都需要把凳子升高。	北京女医	北京的女医
	姜亜芬は知らないで、後方の看護婦を振り返って言った。		姜亚芬也不知道，回头问器械护士：	北京女医	北京的女医
	仕方がないので陸文■はその中から使用できるものを選び出す。		没办法，陆文婷只好挑选使用。	北京女医	北京的女医
	陸文■が眼指図で看護婦に、子どもの両腕を手術台の両わきのベルトに結び付けさせようとするので、王小■が反抗しようとしたので、陸文■は手術台のそばに駆け寄って言った。		陆文婷示意护士把孩子的手腕用床两边的带子系上。王小嫻刚要反抗时，陆文婷坐在床头上说：	北京女医	北京的女医
	園園が帰ってきたので、ふたりでうどんを食べ始めた。		园园回来，他们就一块吃起来。	北京女医	北京的女医
	水の流れに彼の狂ったように走る姿が映っている。あまりに急激に走ったので彼の声はかすれている。		流水倒映出他狂奔的身影。他跑得那么急，他的声音在发抖：	北京女医	北京的女医
	余りに多くの人びとがやってきたので、傅家傑は立ち上がった。		傅家杰见来了这么多人，忙站了起来。	北京女医	北京的女医
	文■、もう紙を替えている暇がありませんのでこのまま書き続けます。		可是，文婷，我没有时间换一张纸了，就这么写下去吧！	北京女医	北京的女医
	この経験豊かな働き盛りの教授は、後輩の養成を当然の義務と考えていたので、新卒生のテスト、選考には自ら当たった。		这位年富力强、精力旺盛的教授，把培养年轻医生当作自己不容推卸的责任。每当医学院分来一批学生，他都要逐个考察，亲自挑选。	人到中年	人、中年に到るや
	背も低く目立たない存在なので、先ほどの回診の列にこの病棟医が混じっていたことを知らなかった。		她确实长得个子不高，而且很不显眼。刚才查房时，孙逸民就没有注意到尾随在自己身后的还有这个住院医。	人到中年	人、中年に到るや
	「・・・それで、私も写真を撮ってみました。異物は確かにあると思いますので、孫主任にもう一度見ていただきたいのですが……」		“...我又给他做了无骨照相，我认为确实有异物。请孙主任再看看。”	人到中年	人、中年に到るや
	ソファに身を沈めた男の客は非常に背が高く、両のピンには白いものが混じっている。茶色の眼鏡をかけているので彼の回は覗けない。		那坐在沙发上的男客身材颇长，两鬓斑白，戴一副茶色眼镜，使人看不见他的目光。	人到中年	人、中年に到るや

日本語 (訳文)		中国語 (原文)			
会話文	地の文	会話文	地の文	作品名	訳文
「...下の世話から寝返りまですべて介添えがいらいますので、二十四時間の完全看護をしてあげてください。...」		“...“陆大夫需要绝对静卧，不能让她动。大小便，翻身，都要人，应该二十四小时都有专人护理。...”		人到中年	人、中年に到るや
「...ママ、ママ、どうわ言のように呼んでいただけますので、ちょっと来てやって下さいませんか？」		“...要找妈妈，你能不能来看。”		人到中年	人、中年に到るや
	そして彼も「8923部隊」(文革中各分野の仕事がストップされ、出勤してもやることのないので朝八時に顔を出して九時頃失敬し、午後は二時に出て三時には帰ってしまうという職場が多出した。		他变成了“八九二三部队”的成员。每天八点上班，九点下班；二点上班，三点下班。他整天无所事事，把全部精力和聪明才智都用在家务上了。	人到中年	人、中年に到るや
	しかし、「四人組」が失脚してからは科学研究が大々的に推進されて傅家傑も重用され、研究テーマも重点プロジェクトにリストアップされたので、打って変わって多忙になってきた。		粉碎四人帮以后，科研工作要大上，傅家杰被视为骨干，他的科研项目被列为重点，又成了忙人。这样，家务劳动的重担又有很大一部分压倒陆文婷肩上了。	人到中年	人、中年に到るや
	ただでさえ狭い部屋の中にベビーベッドを押し込み、のちにはそれを大人のシングルベッドに入れ換えたので、部屋の中は足の踏み場もない。		小屋里挤进一张小孩床，后来又换成了单人床，几乎没有转身之地了。	人到中年	人、中年に到るや
「親父は医者のかせに古文の素養が相当あったので、私も子供の頃から詩文が好きで文人を志したものだ。」		“...我父亲是个医生，古文底子很厚。我从小喜爱诗词歌赋，一心想当文人。...”		人到中年	人、中年に到るや
	多分、一人娘のためだろう、立ち入らない方がいい、そう判断したので話題を変えた。		可能是为了他那唯一的女儿，觉得不便深谈，便岔开话说：“我从来喝酒，亚芬和你要走了，今天我要敬你们一杯！”	人到中年	人、中年に到るや
	傅家傑は平素酒を飲まないで、少し入っただけで顔を赤く染めている。		傅家杰平日不沾酒，今天喝了一点，脸就红了。	人到中年	人、中年に到るや
「それは良くありません。過熟期に入ると水晶体が脆くなってきますので、手術はかなり難しくなってきます。この時期には水晶体が脱位しやすくなりますので……」		“那样不好。”陆文婷解释说，“到了过熟期，晶体缩小，晶体内部的皮质溶化，悬韧带松弛，手术就比较困难了，因为这时候晶体很容易脱位。”		人到中年	人、中年に到るや
	正午をとくに過ぎていたので、陸文?は暇をつけて部屋を出た。		已经过了下班时间了，陆文婷告辞出来。	人到中年	人、中年に到るや
	陸文?は背が低いので手術の時はいつもスツールを高くしなければならぬ。		陆文婷个子矮，每次手术都需要把凳子升高。	人到中年	人、中年に到るや
	姜亜芳も知らないで、器具係の看護婦の方を向いて訊ねた。		姜亚芬也不知道，回头问器械护士：	人到中年	人、中年に到るや
	夫の傅家傑は、何人も人が入ってきたので慌てて立ち上がっていた。	傅家杰见来了这么多人，忙站了起来。		人到中年	人、中年に到るや
	蘭香はおれがぼうっと彼女を見ていたので、ますますうんざりするよう甘ったるい笑顔をつくり、体をすり寄せてきた。	兰香见我两眼怔怔地看着她，笑得更甜更腻，身子也与我靠得更紧。		人啊、人	ああ、人間よ
	許が急に話題を変えたので、お母さんは不意をつかれたみたい、一瞬、面くらって、それから私を気にしてこっちを見た。		妈妈似乎对他这样发问的话题没有准备，怔了一怔，又注意地看了我一眼。	人啊、人	ああ、人間よ
	子どものころズボンをはけなかったで、村人は「尻まる出し」と呼んだ。		小时候，他连裤子都穿不起，同村人叫他“光腚”。	人啊、人	ああ、人間よ
	彼がまた近づいてくるので、私はびっくりして彼を見た。		他又朝我靠近一些，我吃惊地看着他。	人啊、人	ああ、人間よ
「あなたが病気だなんて知らなかった。気持ちがくさくさするから、散歩でもと思っ出てきたんだけど、前を通りかかったので、運だめしをしてみようと思ったの。そしたら、ほんとにいたなんて」		“我还不知道你生病呢！心里烦闷，出来走走。路过你家门，就碰碰运气。想不到你真在家！”		人啊、人	ああ、人間よ
おととい、私は偶然、娘の日記を見てしまった。いつものように、娘が寝入ってから、勉強の様子を見ておこうとカバンを開けた。と、小さな手帳がこぼれ落ちたので、開いてみたら日記だったのだ。		前天，我无意中看到了她的日记。象往常一样，在她入睡之后，我要检查她地功课。书包里掉出一个小小的记事本。翻开一看，却是日记。		人啊、人	ああ、人間よ
	娘が日記をつけているとは知らなかったで、好奇心に駆られて読みはじめた。		我不知道孩子记日记，好奇心使我想看一看。	人啊、人	ああ、人間よ
	女たちが早めに来て食事の用意をしてくれたので、十時半過ぎには、一同、食卓についた。		几个女同学先来，早把饭菜做好。所以十点半钟一过，大家就在饭桌上就座了。	人啊、人	ああ、人間よ
	彼は浙江の人間である。ずっと南方の都会ことばでしゃべっていたのが、すっとんきょうに「オラ」と言ったので、一同はどっと笑った。		///他是浙江人，一口南方官话，把个“俺”字念得怪里怪气，又引起大家的哄笑。	人啊、人	ああ、人間よ
	題名はちょっとユニークに、『君ってほんとに人物!』とした。ところが文学芸術界に、賛歌か暴露かの討論が起こったので、筆をおいてしまった。		题目很别致：《我说，你真是个人物!》可是文艺界开展了歌颂和暴露的讨论，我搁笔了。	人啊、人	ああ、人間よ
	ふたりがふりふりしているで、孫悦が仲裁に入った。「さあ、いい加減にして。みんなめったに会えないのよ」		孙悦见我们两人都有点恼了，就出来劝解道：“何必呢？大家都是难得碰面的。”	人啊、人	ああ、人間よ
	呉春のことで一回の視線がいつせいに自分に集まったので、彼女はささか不安げな表情になった。		她见同学们听了吴春的话都注意到她，有点不安。	人啊、人	ああ、人間よ
	許恒忠は、何荆夫、呉春、孫悦の三人がかわるがわる攻撃してくるので、とてもかわぬと見て、あわてて矛を収め降参した。		许恒忠见何荆夫、吴春和孙悦三个人轮番与自己作战，自知抵挡不住，连忙休战，自台下战。	人啊、人	ああ、人間よ
	何荆夫はおれがまともに答えないので、それ以上にもきかなかった。		何荆夫见我不正面回答他的问题，也不再问我什么了。	人啊、人	ああ、人間よ
	私は泣きたかったが、彼の前では泣きたくない。我慢できなくなると困るので、立ち上がって部屋の中を歩き回った。		我想哭，但是不愿意在他面前哭。我怕我支持不住，便站起来在房间里来回走动。	人啊、人	ああ、人間よ

日本語 (訳文)		中国語 (原文)			
会話文	地の文	会話文	地の文	作品名	訳文
	「だけど、おじさん……」。私は何さんにききたかった。もしお母さんが自分の歴史の道を歩き終えたら、いったいどうなるの?って。だけど、希望がきき耳を立てているので、口に出せない。		“可是，何叔叔……”我想问问何叔叔，要是妈妈走完了自己的历史道路，会怎样呢?可是一看见渴望竖起两只耳朵，我不说了。	人啊，人	ああ、人間よ
	おれは口ではそう言いながら、喉がつまって、息苦しくてならなかった。幸い、食堂がま近だったので、感慨に言った。		///我这么说着，嗓子只觉得憋得难受。好在食堂快到了，我对憾憾说：	人啊，人	ああ、人間よ
	だれかがフッと吹き出した。あそこの高齢の女性委員とその隣の教授同志だ。彼も党委員会常務委員で、歴史学教授の地位にある。党委員会ですら「教授」と呼んでいる。		谁“噗味”笑了?是那位年老的女委员和她旁边的那位教授同志，他也是党委常委，历史学教授。是党委中唯一的教授。所以大家就叫他“教授”。	人啊，人	ああ、人間よ
	私は自分の意見を整理するいとまもなく、思いつくままに話したので、発言が長くなった。		我来不及整理自己的意见，想到就说，所以说得很长。	人啊，人	ああ、人間よ
	こちらに背中を向けているので、顔は見えない。		我看不见他的脸，他用背对着我。	人啊，人	ああ、人間よ
	憾憾が漫才師の口調で言ったので、われわれは大笑いした。		憾憾学着相声演员的腔调说话，逗得我们哈哈大笑。	人啊，人	ああ、人間よ
	でぶの王は他の同僚のところへ行って軽口をたたいている。手紙の開封を待っているのだろう。しかし、おれが開けなかったの、しびれを切らして帰っていった。		王胖子转身到另一个同志跟前，打着哈哈。是等我拆信吧?我不拆。他等不下去，便走了，	人啊，人	ああ、人間よ
	しかし、私も所詮は人間である。感覚はまだ麻痺していなかったの、道は平坦でないと感ずることができたし、人びとの体に血の痕を見、顔に涙の痕を見ることができた。		然而，我毕竟是人，我的感觉还没有麻木，因而能够感到道路的坎坷，看见人们身上的血迹，脸上的泪痕。	人啊，人	ああ、人間よ
	私は文芸理論の教師なので、文学、哲学、そして政治経済学にいたるまでの大量の理論的著作に触れないわけにいかない。		我是一个文艺理论的教师，我不可能不接触大量的理论著作，包括文学的、哲学的、甚至还有政治经济学的。	人啊，人	ああ、人間よ
	梅かれの従兄の妻学良が滬江紡績工場の工場長なので、その縁故をたぐって工場へはいり、はじめは事務主任の仕事を手づかみしていたが、最近になって、副工場長に昇進したのだった。		他的表哥裘学良是沪江纱厂的厂长，就凭这个亲戚关系到厂里来的，起先是担任事务主任的工作，最近升了副厂长，	上海的早晨 (上)	上海の朝上巻 第1部
	///すると、入り口に一人の青年が姿をあらわした。まっかな格子じまのワイシャツをきて、洋服のスボンがびんとまっすぐにのび、そのズボンの口がせまいので、すべすべした皮ぐつがますます光って突き出た感じで、黒くてつやの出ているのが、かれの頭髪と同じように人目を引いた。		门口出现了一位青年，身穿大红方格子衬衫，西装裤子笔挺，裤脚管不大，显得脚上的那双尖头皮鞋越发尖得突出，乌而发亮，和他头发一样的引人注目。	上海的早晨 (上)	上海の朝上巻 第2部
	「そうね」、彼女は、お婆の言い方が何か責めているようだったので、うつむいて、手にした水色のハンカチをいじっていた。		“是的。”她听姨妈的口吻有点责备她的意思，低下了头，玩弄着手里的淡青色的手帕。	上海的早晨 (上)	上海の朝上巻 第3部
	徐守仁は一声呼んだが、返事がないので、声をはりあげて、また呼んだ。		徐守仁叫了一声无人应，提高嗓子，又叫道：	上海的早晨 (上)	上海の朝上巻 第4部
	「…かれも、梅佐賢がきょう自分をここへ誘い出したことについては、かならず何か重要な用件があることに気づいていたので、すぐさぐりを入れて言った、「工場長がわれわれに何かやれと言うんでしたら、余計なことは言わないで、必ず言われるとおりにしますよ!」		“……他晓得今天梅厂长约他到这里来，一定有啥重要的事体，便试探地说，“厂长要我们工人做啥，没有二话讲，一定照办!”	上海的早晨 (上)	上海の朝上巻 第5部
	「そうだな!」、梅佐賢はかれの意見をきいて、どれもそのとおりでとは思ったが、しかしまだ具体的ではないので、いそいで問いかけた、「どんな具合にやっていくのだ?」		“是呀!”梅佐贤听他这些意见都很对，可是还不具体，急着追问，“哪能进行呢?”	上海的早晨 (上)	上海の朝上巻 第6部
	このところ中央が实事求是で(事実)に即して) 誤審・冤罪事件を名誉回復する方針を打ち出しているの、こうした種類の訴えが驚くほど多いのだ。		最近一个时期，因为中央有了实事求是、纠正错案、冤案的精神，这类申诉材料多得惊人。	天云山传奇	天雲山伝奇
	夫の呉遠はかつて彼女の父親の部下だったし、私の亡くなった父親もまた彼女の父親と知り合いだったので、彼女はしょっちゅう我々の家に入り出して、家族同様につき合っていた。		我丈夫吴远曾是她父亲的下级，我去世的父亲也认识她的父亲，所以她也就成了我们家的常客，来往像自己家一样。	天云山传奇	天雲山伝奇
	///しかも議論するとなると舌鋒鋭く辛辣で、歯に衣着せぬ、時によると人々が皆避けて通るような話題をずばりと明らかに口にのぼせるので、相手は閉口してなんとかその話題をそらそうとするのだった。		///而议论起来又尖锐泼辣、毫无顾忌，有时，把人们都回避的一些问题，也会一下子赤裸裸地端出来，常常弄得对方张口结舌，只好设法岔开她的话题。	天云山传奇	天雲山伝奇
	そこまで言うとなら彼女も鋭い目つきで私を見つめた。彼女の問いかけは大問題なので、私はしばらく考えこんで答えずにいたが、		她说到这里，目光炯炯地盯着我。我因为她讲的题目相当大，沉吟了片刻，没有回答。	天云山传奇	天雲山伝奇
	「…この時、ちょうど一人の服務員が通りかかったので、私は急いでその馬車を指さして+++『あの馬方はどういふ人?』とたずねたの。		“……这时，正好有一位服务员走过，我连忙指着马车问他，‘那个赶马车的什么人?’”	天云山传奇	天雲山伝奇
	あの頃私達はみな彼を嫌っていたの、彼と顔を合せぬために私は冯晴嵐を引っぱって竹藪の中に逃げこんだ。		当时我们都讨厌他，为了避免被他撞见，我拉着冯晴岚钻到竹林里。	天云山传奇	天雲山伝奇
	冯晴嵐が見かねて私をたしなめたので、私もやっと笑い止んだ。		还是冯晴岚过意不去，讲了我一句，我才止住了。	天云山传奇	天雲山伝奇

日本語 (訳文)		中国語 (原文)			
会話文	地の文	会話文	地の文	作品名	訳文
	皆は今度は乗馬の練習を始めた。私は馬に乗れないし、興味もないので、一人こっそりとそこを抜け出した。		同志们又在学骑马了。我从来没骑过马，对它也没有兴趣，就悄悄地从人群里溜出来。	天云山传奇	天雲山伝奇
	野営地からかなり離れた所で、ワッと笑い声が上がり、疾駆する蹄の音がカッカッとひびいてきたので、目を上げると何人かがそこで乗馬をやっていた。		离营地很远，就听见一阵笑声，一阵急促的马蹄声清脆地响了起来，我抬头望去只见几个人在那边跑马。	天云山传奇	天雲山伝奇
	///馬はその場でゆっくりと足踏みしていたので私はつい大胆になり、政治委員に向かっただけで、私にはもう怖いことを示そうと、身体をそらし、たずなをぐっと引いた。		///马踏着小步在原地走着，我不觉胆子也大起来，望着政委，感谢地向他笑笑。为了表示我现在不拍了，我还把身子一挺，把马缰一收紧。	天云山传奇	天雲山伝奇
私を見て娘さんはこちらを指さすし、羅群も顔をあげて私をみたので、私は思わず手を挙げたけど、彼らは私に遠ざかってしまった。		“他们也看见了我，那小姑娘用手我指指，罗群也抬头望望我，我不自觉地扬起了手，可他们已经渐渐跑远了。”		天云山传奇	天雲山伝奇
「見つめていると彼女がちょっと動いたので、ふとんをかけ直してあげた。		“我望了她一会，她动了动，我替她把被子掖好。……”		天云山传奇	天雲山伝奇
///「彼女は全身の力をこめてベッドに身を起したので、私はその背に枕をあてて上げた。		“她挣扎了一下，坐了起来，我帮她拿了个枕头垫在后背。”		天云山传奇	天雲山伝奇
…それに答える間、彼女はいぶかしげにじっと私をみているので、私は急いで来意を説明し、鎮革命委員会の紹介状も手渡したわ、それを見たら彼女は『まあ』と声をあげて、『どうやらとうとう天雲山区のことを思い出した人があるのね』と言うの。『そうです、天雲山がむざむざと長年無駄に過したことは、歴史の悲劇です!』と私は言ったわ。		“……她用手拢了一下头发，又问我是谁，从哪里来的？我告诉她，她多少有点惊讶地望着我。我赶紧把我的来意说明了，并把镇革委会的介绍信递给了她。她看看信，‘啊！’了一声说：‘总算有人又想起天云山了。’我说：‘是的，天云山白白过去了许多年，这是一个历史的悲剧！’”		天云山传奇	天雲山伝奇
	やがて、益々多くの人々が私に勧めるし、呉遥はまた私の前では終始真面目で優しかったので、ついに私は、いいことにしよう、とと思ってしまった。		不久，来劝说的人越来越多，而吴遥在我面前又一直是殷勤而温顺的，我心一横，算了!	天云山传奇	天雲山伝奇
	私はまるで何かを見失ったように、あたりを眺め回したので、呉遥がとうとう、何か探しているのかと小声でたずねた程だ。私が何を探していたのか、自分にもどうして分つたろう?		我四处张望，好像失掉了什么东西，以致于吴遥竟低声问我找什么；我究竟要找什么，我自己又哪里知道?	天云山传奇	天雲山伝奇
	この課長は朱といい、呉遥の古い部下、呉遥に対してはとても忠義立てするが、上役に媚び、人のツゲロをするので、私は平素から大嫌いな男である。		这个科长姓朱，是吴遥的老部下了，我很不喜欢他，因为他不仅对上献媚，而且好打别人的小报告。虽然，他对吴遥倒是非常忠诚的。	天云山传奇	天雲山伝奇
	晴嵐はまず羅群を紹介していたが、その情熱溢れる描写は、純粋、率直、情熱的で真理を守るに実に勇敢な羅群の人間像を、忽ちくっきりと私の前に浮び上がらせたので、まるで彼がほえみながら私を見つめているような気さえたほどだ。		我读着前面晴岚对罗群的介绍，她的热情洋溢带有文学性的描写，使罗群那种天真、爽直、热情和敢于坚持真理的形象，一下子又清晰地浮现在我的面前，好像仍旧在含笑地望着我。	天云山传奇	天雲山伝奇
「…私はあなたの方の愛情の進展を願ひ、またあなたに頼まれもしたので、はじめて傍から本気で羅群を観察し始めたことを覚えています。あの時、あなたは恋の熱い目で彼を見つめ、私は理性で彼を観察したのでした。		“……我记得我是因为我太关心你们的爱情发展，而且是受你委托，才认真站在旁边观察罗群的，那时你用热恋的眼光望着他，而我却是以理智的心灵来观察他的。”		天云山传奇	天雲山伝奇
「…彼はあまりに真面目だったので、私も同じように真面目になっていました。		“……他太严肃认真了，把我也变得严肃起来。……”		天云山传奇	天雲山伝奇
「事態がここまですんでいたら、羅群の計画も順調にすすんだことでしょう、まだこの時は彼は国家の幹部でしたし、村人達は、凌曙同志を通じて彼をよく理解していたので、彼のことを全然悪人とみなしていなかったのですから。		“假使到这时为止，不再向前发展，罗群的计划是可以顺利进行的，因为这时，他还是一个国家干部；当地的老乡也从来没有把他当作坏蛋看待，因为通过凌曙同志，群众对罗群已有更深的了解。”		天云山传奇	天雲山伝奇
「その日の朝早く、私は悲しみと怒りを抱いて羅群の所へ出かけました。凌曙には病気の妻と一歳にならぬ赤ん坊がいることを知っていたので、何か手助けしようと思ったのです。…」		“这天一大早，我怀着悲愤的心情去找罗群，我知道凌曙有一个在病中的妻子，还有一个不到周岁的孩子。我想为她们做点事，……”		天云山传奇	天雲山伝奇
「しかし我々はやはり唯物論を信じているので、客観的に存在する物を否定し去ることはできません。		“但是我们毕竟是信仰唯物论的，客观存在的东西，谁也否认不了它。”		天云山传奇	天雲山伝奇
その時から私は病みつき、四人組の支配が長かったのでその間全く治療を受けられず、今では治るみこみがないのです。		从那时起我就得了病，这种病又因‘四人帮’统治的时间太长，使我得不到医治，现在已难以医治了。”		天云山传奇	天雲山伝奇
	この一瞬の表情を私の目は見逃さなかったもので、私はそれを見るときやほり話をずっと遠回しにもっていかねばと思った。で、こう言った。		他刹那间的表情，没有逃过我的眼睛，也正因为我看到了这一点，我只得绕大弯子说话。我说：	天云山传奇	天雲山伝奇
	彼に反対されるのは予想していたものの、こんなに怒り狂うとは思わなかったもので、その凶暴な顔つきをみながら私の心は刺されるように痛んだ。		对他的反对我是早就估计到的，但我实在想不到他竟会这样发疯，我望着他变得凶横的脸，心里像刀绞似的难过。	天云山传奇	天雲山伝奇
	私はどうしてよいか分らずたばげんやりと坐っていた。彼がどんな会をやるつもりか分からないので、逃げることもできない。かといって、まるで何もなかったような顔をして会に出ていくことができるのか?		我仍旧呆痴地坐在那里，我不知道该怎么办，也不知道他还要开什么会，想走，又走不掉；不走，我现在还能装作什么事也没发生似的，坐在那儿开会?	天云山传奇	天雲山伝奇

日本語 (訳文)		中国語 (原文)			
会話文	地の文	会話文	地の文	作品名	訳文
「宋徽同志のミスは感情的なものだ、なぜなら……なぜならこの羅という男の細君は彼女の同級生なので、それで彼女はこういう誤りを犯したのだ。我」		“宋徽同志の毛病就出在感情上，因为……因为那个姓罗的老婆是她的同学，所以她才犯了这样的错误。……”		天云山传奇	天雲山伝奇
	娘は私を放し、お薬を飲むかときいた。私は首をふって、もう一度寝るように入ったので、彼女はそっとドアを開けて出て行った。		女儿放开我，又问我要不要吃药？我摇摇头，又催她去睡，她才走了，轻轻带上门。	天云山传奇	天雲山伝奇
	私がバツと眼をあげたので、幻は消えた。ただスタンドの青白いほのかな光が、私の影を青味をおびた白壁の上に投げているばかり。		我猛然睁开眼，幻影消失了，只有台灯的苍白而暗淡的光，把我的影子投在那白得发青的墙上。	天云山传奇	天雲山伝奇
周瑜貞はここまで言うのと、いきなり閉め切ったカーテンをバツとあげたので、強い日の光が射し込んできた。……」		周瑜贞说到这里，猛地拉开关得严严实实的窗帘，一道强烈的阳光射了进来。……”		天云山传奇	天雲山伝奇
	呉遥は私が茫然としている間に、サツと私のオーバーをひったくったので、私はよろけてもう少してころびそうになった。		吴遥乘我呆楞的时候，一把把我的大衣夺了去，我踉跄了一下，几乎跌倒了。	天云山传奇	天雲山伝奇
周瑜貞は彼を見、私を見て、首をふって溜息をついた。「呉遥同志、あなたは人にこういう態度をとるのね。今じゃあなたは勝手気尽に人をやつつけられないので、自分の部内と家の中で人をいじめるんじゃないの？いいわ、お邪魔しないわ、おぼさん、先に行ってるわね」		周瑜贞看着我，摇了摇头，叹息了一声说：“吴遥同志，你就用这种态度对人吗！是不是你现在不能随便整人，就整你的部门，你的家庭？好！我不来打扰你了，大姐，我先走了。”		天云山传奇	天雲山伝奇
頭がまだぐらぐらするし両足もふらつくので、私は客間で立ち止った。……」		我在客厅里停了停，因为我的头一直是晕的，两腿也发软。……”		天云山传奇	天雲山伝奇
と、階下で車の出ようとする音がきこえたので、窓から待ってと叫ぼうとした時、思いもかけず、後ろから跟けて来た彼が、私をぐっと引き戻し、猛烈的なピンタをくわせたのだ。……」		我听见楼下汽车发动的声音，我想到窗口喊她等等我，我方万没有料到，他居然跟了上来，一把把我揪了回来，猛地一巴掌，……”		天云山传奇	天雲山伝奇
	私は階下へと足を踏み出した。しかしこの数日来的ショックがあまりに大きく、また昨夜は一晚中発熱したので、足がぶるぶると震えつづけ、晴嵐の、羅群の、呉遥の顔が次々と私の前にめまぐるしく交錯し、二三段階かけたところで足を踏みはずして、あつという間に階段を下までころげ落ちた。		我挪动步子，朝楼下走着，但是因为这两天我受的刺激太大了，昨夜又发了一夜烧，我的腿抖个不停，晴嵐的、罗群的、吴遥的脸，又不断在我眼前闪来闪去，我刚下了两三级，一脚踩了个空，整个身子顺着楼梯滚了下去。	天云山传奇	天雲山伝奇
「あの人はいい人ね」と娘。「お父さんが行ってしまってから、あの人は時間があると家へ来てくれて、私にいろんな話をしてくれたわ。あまりいい話なので、私聞いて泣いてしまったくらい」		“她可好了！”女儿说，“爸爸走了，她有空就到我家里，她还跟我讲了不少故事。有的故事，讲得真好，硬是把我讲哭了！”		天云山传奇	天雲山伝奇
	娘は私を支えて起こしてくれた。幸い私のベッドは窓際にあるので、ガラス窓に顔をよせて見下すと、広場も道も、人や旗、自動車や馬車でうずまわっているのがみえる。		女儿把我扶起来，好在我的床就靠着窗子，我凑在玻璃上往下望着。只见广场上、马路上，到处是人，是旗子，是汽车、马车，汽车上装着庞大的机器，一直摆到我望不见的地方。	天云山传奇	天雲山伝奇
	ガラス越しなので声はきこえないが、何か力強く手を振る仕草が見える。		我隔着玻璃窗，听不清他的声音，只看见他有力地挥动着手臂。	天云山传奇	天雲山伝奇
	こう考えていたので、道中、気持は落着いていた。しかし天雲山地区に入った途端、胸の動悸は抑えがたくかまいった。		因为是这样想的，上了路，心地倒也是坦然的，可是，我一进入天云山区，心却又不由自主地跳起来。	天云山传奇	天雲山伝奇
	あまり意外だったので私はゴッとして思わず足を停め、つと一本の木の後ろにかくれた。		这意外的发现，使我不觉一震，我下意识地停了脚步，把身子掩到一棵树后面，躲了起来。	天云山传奇	天雲山伝奇
	堤防の造りがあるにも堅牢だったので、水は逃げ場を失い、大きな湖となった。		那坝子修得太坚固，连个去处也没有，成了个大湖。	小鮑庄	小鮑莊
	////窪地なので、そこには葦が生い茂った。		这里地洼，苇子倒长得旺。	小鮑庄	小鮑莊
	しかし歌おうが歌うまいが、撈遣はいつも彼女ににこにこ笑いかけるので、彼女もついほほえむのだった。		她唱，她不唱，撈遣总和和气地对着她笑，笑得她也只好笑了。	小鮑庄	小鮑莊
	「やっぱあんたが間違ってる」小翠子は腰を伸ばして天秤棒を担ぐと、さっさと歩きだしたので、文化子はひきずられてよろめいた。		“可不是你错了！”小翠子直起腰，扁担上了肩，刷刷溜溜地就走，把文化拽得一踉跄。	小鮑庄	小鮑莊
	その後の話では、その作家が間もなく到着するので、県の招待所に宿泊する手筈を整えたということだった。		这几天又听说，那作家日后就到了，住宿都安排妥了，住县一招。	小鮑庄	小鮑莊
	いい陽気で、風さえなまぬるかった。半月あまり雨がなかったので、街道には靴が埋まるほど土埃がたまっていた。		太阳很好，把风都暖热了。半个月没下雨，大路上的浮土有半脚深了。	小鮑庄	小鮑莊
	喉が乾いたので、大きな家の井戸端に立ち寄って、水を汲んでいた老人から杓に半分ほど水を飲ましてもらい、さらに先を急いだ。		他感到燥热，走过大方家井沿上，向个提水的老头讨了半瓢水喝，紧接着赶路。	小鮑庄	小鮑莊
	『作品』の表紙がすべすべしているの、何度もずり落ちそうになった。彼はそれをかかえあげては、前に進んだ。		“作品”的封面滑溜溜的，老往下打滑，他把它搂接好，向前走。	小鮑庄	小鮑莊
	『作品』は机の陰で読んだので、誰からも見えなかった。		他把“作品”放在桌底下看，没有人看见。	小鮑庄	小鮑莊
	気分はずんで、思わずラジオに合わせ歌ってみたが、調子はずれでみっともないので、すぐにやめた。		他觉得很幸福，不由跟着广播哼了一句，没合上调，哼得难听，赶紧住了嘴。	小鮑庄	小鮑莊
	太小翠子と文化子は来るのが遅かったので、まだ筈はいっぱいにならなかった。		小翠和文化来得晚，草箕子里还差点儿才满。	小鮑庄	小鮑莊

日本語 (訳文)		中国語 (原文)			
会話文	地の文	会話文	地の文	作品名	訳文
	「“十二月”がいい」文化子は即座に言った。与太者たちの口から「十二月」というのがあることは聞いていたが、一体どんなものか知らなかったので、聞きたくてうずうずしていた。		“唱个‘十二月’。”文化子立马说。他是从那些二流子嘴里听说有个“十二月”，也不知“十二月”究竟是什么，想得心痒痒的。	小鮑庄	小鮑莊
	二小子の葉の茎は蒸らしかたが足りないので、撈渣にかなわなかった。		鮑仁远家二小子的杨柳叶梗子捂得嫩，拉不过撈渣。	小鮑庄	小鮑莊
	しばらくしてから、小翠子は背を向け、ゆっくりと東に向かった。行くほどに足を早めたので、撈渣は後を追いきれなくなった。		小翠一会儿回转身，慢慢地朝东头走去，越走越快，撈渣撵不上了。	小鮑庄	小鮑莊
	泣き声がほぼ村中の人を呼び集めた。撈渣がいち早く知らせたので、鮑彦山とその女房が一緒に駆けつけて、小翠子を連れもどそうとした。しかし小翠子は木の幹にしがみついたまま、叫び続けた。		哭声几乎把全庄的人都招来了，撈渣早已跑去报了信，鮑彦山和他家里的一起跑来了，要把小翠拖回家去。小翠死抱着柳树干不松手，嚎着：	小鮑庄	小鮑莊
	家では食糧キップをもたしてやれなかったもので、彼は食堂に行けなかった。毎日二十里〔十キロ〕の道を往復し、昼は煎餅をひと巻きもって行って、茶に浸して食べた。つらい毎日だった。		家里没得粮票给他带去吃食堂，他就每天来回跑，二十里路哩，中午带一卷煎饼，泡着茶吃。苦死了。	小鮑庄	小鮑莊
	撈渣はぐっすり眠っており、鼻息さえてなかった。窓は塞がれていたもので、部屋は何ひとつ見えぬ暗闇だった。		撈渣睡得安静，连丝鼻息声都没有。窗洞叫堵上了，屋里黑得伸出手不见五指。	小鮑庄	小鮑莊
	「それでももっと勉強させたほうがいいよ」鮑仁文はあきらめなかった。脇で文化子が泣きじゃくっているのを、あきらめるわけにいかなかった。		“还是多读书好哇！”鮑仁文不放弃努力。文化子在一边抽抽搭搭的，要放弃也放弃不得。	小鮑庄	小鮑莊
	鮑仁文はあちらこちらに原稿を送ったので、あの厚い『作品』はもう全部ばらばらになって、なくなってしまった。一		鮑仁文往四面八方都寄了稿，那一厚本“作品”已经拆开寄完了。	小鮑庄	小鮑莊
	その土地廟はとくに壊されていたので、彼女は線香を廟の前の大木の根もとに挿した。		那土地庙早已被毁了，她就	小鮑庄	小鮑莊
	荒れはてたところだが、作家たちがそんな野趣を楽しもうというのは、亭や楼閣、山紫水明にあきたので、目先を変えてみたいのだから。		荒芜的，野野的，作家们就是要看这野味，亭台楼阁，画山秀水看惯了，要换换口味。	小鮑庄	小鮑莊
	///幸い、小さいときから、そんな好奇と羨みの目に囲まれて大きくなったので、彼にとってそんなことはなんともなかった。		///好在，拾来从小是在这种好奇又鄙夷的目光中长大，这对他不新鲜了。	小鮑庄	小鮑莊
	今年の春、郷では人手を集めて、敷石道を一本造ったので、逃げやすかった。		今年春上，乡里集工修了一条石子路，跑得动了。	小鮑庄	小鮑莊
	///ともかく自分の夫がまともでないように思われ、内心ひげめを感じてしまうので、二度と大声をはりあげることができなくなったのだ。		///她总觉得自己这个男人不是明门正道的，自己心里先亏了三分理，便再也嚷不出去了。	小鮑庄	小鮑莊
	「一日働くのに、こんなもんですむか。雇い人にだって飯ぐらい腹いっぱい食わせるだろう」拾来は鍋をおい		“干一天活，喝这个管吗？雇的短工也得管饱饭！”拾来放下碗，搁重了点，“砰”的一声响。	小鮑庄	小鮑莊
	しかも欠点が多いので、ことごとくにぼろが出た。		而他的缺点又那么多，一动弹就露出了马脚。	小鮑庄	小鮑莊
	相手になつてくれないので、文化子も彼にかまわず、靴をぬいで寝床にあがると、腕を枕に横になって、鮑仁文といれかわった。		他不理会文化子，文化子也不理会他，脱了鞋，上了床，枕着胳膊躺倒了，和鮑仁文换了地方。	小鮑庄	小鮑莊
	戸に鍵はかけてなかった。押しも開かないので、力をこめたら、倒れてしまった。		门上没锁，虚掩着，推门推不动，再使劲，门倒了。	小鮑庄	小鮑莊
	鮑彦山の女房は竈に火をくべていたが、見知らぬふたりがやって来たので、少しあわてた。		鮑彦山家里的在烧锅，见来了两个陌生人，有些着慌。	小鮑庄	小鮑莊
	///鮑彦山はよくのみこめなかったが、人に何度も説明してもらうのも気がひけるので、ともかくうなずき、ちょっと考えて言った。「撈渣は大人も子供も尊敬しとった。年青りに会えばかならず挨拶したし、子供とは喧嘩ひとつしなかった」		鮑彦山有点不大明白，可究竟不好意思叫人再三地解释，便点点头，想了一会儿说：“撈渣对大人孩子都很尊敬的，见了老人总问好；‘吃过了吗？’和小孩儿呢，从不打架磨牙。”	小鮑庄	小鮑莊
	ちょうど拾来は竈に火をくべていた。省の幹部が訪ねてきたので、二■が拾来をおし出し、自分で火をくべた。		拾来正烧锅。见有省里的干部来找我，二婢便推起拾来，自己烧了。	小鮑庄	小鮑莊
	“伝記”には確かに小英雄の生前の資料が大量に収められていたので、その“伝記”を土台にすることにしたのだ。		这“传记”确实收集了小英雄的大量生平材料。他们一起对小英雄的亲人进行了反复采访，然后，又去找拾来。	小鮑庄	小鮑莊
「家がないので、長男は二十七になるというのに、まだ嫁ももらえない」女房が涙を拭った。		“没有房子，大孩子二十七了，还说不上媳儿。”她抹了一把眼泪。		小鮑庄	小鮑莊
	煉瓦を積み、セメントで隙間を埋めてあるので、もはや雑草も生えないし、子羊が草を食みに来ることもなかった。		砖砌的，水泥抹了缝，再不会长出杂草来了，也不会有羊羔子来啃草吃了。	小鮑庄	小鮑莊